



地球の木

■発行/地球の木理事会
 ■発行責任/横川芳江
 ■編集/広報部
 ■事務局/〒222-0033
 横浜市港北区新横浜2-8-4
 TEL 045-471-5536
 FAX 045-471-5543
 E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- あなたは女であることに縛られていませんか? ●ジェンダー・ウォッチング ●マジカルバナナ使い方アイデア集
- 支援先ではいま(女性たちは) ●シンポジウム参加者・ボランティアの声 ●WAKABAのコーナー(ネパール)

あなたは女であることに縛られていませんか?

一歩踏み出そう。そこは新しい世界!

理事 乳井京子



ネパールの自立支援プロジェクトに携わっていて痛切に感じるがあります。「女に教育は要らない」という、過酷な文化的風土の中で育ったタルー族の女性たちは、たった9ヶ月の識字教育(しかも週6日2時間)を受けただけで、200人もの聴衆を前にして、恥ずかしそうにはあつたけれども、意見を言うことが出来るようになりました。更に上級クラスに進んだ女性たちは、蜂の巣をつついたように大声で自己主張します。それなのに、教育の機会に恵まれ、法的にも男女平等の権利を有する日本の女性は、何故、公の場で意見を言いたがらないのでしょうか?

これは、「女が出しゃばるものではない」という封建的な男尊女卑の考え方が脈々と受け継がれてきたためでしょうか。はたまた、「人前で言うからにはきちんとしたことを言わなければ恥ずかしい」とか「他人と違うことを言ったら笑われるかもしれない」という日本人特有の恥の概念から来ているのでしょうか。暗記一辺倒の学校教育にも問題があったと思います。

昨年11月のシンポジウムに招聘したタイ、タマサート大学講師シニットさん(女性)のホームステイを引き受けてくれたTさんが感動冷めやらぬ様子で言いま

した。「シニットさんってすごい方ですね。うちの主人と対等に話していました!」私は暫く友人の言葉が耳について離れませんでした。しかし、「女は控えめに」とか「女は斯くあるべき」という伝統的性別概念に縛られているのはなにもTさんだけではありません。**ジェンダー(社会的、文化的性差)**という視点で日常のごくありふれた風景を観察してみてください。「私は、結構、自由に生きている」と思っているあなたも、きっと見えざる鎖に繋がれている自分を発見するでしょう。

憲法で男女平等が約束されて53年、男女雇用均等法が施行されて14年が経ちます。しかし、男女の格差は一向に縮まりません。国連に加盟している185カ国中、女性の社会参画度で、日本は何位に位置しているか、ご存じですか?なんとビリから50位です!女性の大臣は何人いるでしょう。もっと女性が意志決定の場に進出しなければ、強者の論理がまかり通る今の社会を変えていくことはできないでしょう。

ネパールのある村では、夫たちの虐待に対して、識字教育を受けた女性たちが団結して抗議のデモを行ない、暴力を追放したそうです。それだけでなく、隣村にまで出向いて暴力反対運動を広めたのです。

12~13歳で結婚して1日14~15時間の労働を担うタルーの女性たちに比べ、私たち日本の女性はずっと多くの時間とお金と情報と知恵をもっているはず。21世紀を共に生きる豊かな社会にするため、あなたは持てる力をどのように使いますか?

1975年の国連婦人年を契機に始まった「国連婦人の十年」の間に女性の権利に焦点が当てられ、女性擁護のための様々な活動が行なわれ、女性の社会参加が奨励されるようになりました。1995年に北京で開かれた第4回世界女性会議では、「女性」から「ジェンダー」に焦点が移り、社会や文化の枠組みの中での男女の差を見直していくことが求められるようになりました。

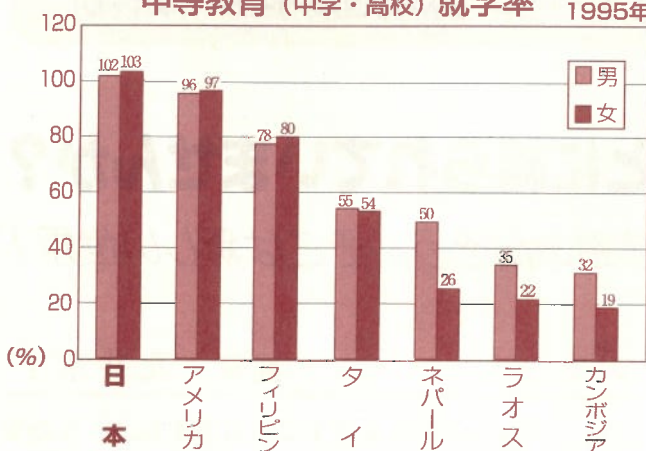
この間、女性の識字率は上昇し、中等教育を受ける女性も増えました。健康や雇用においても大きな向上が見られました。そして今、女性たちはどのような状況にいますでしょうか。地球の木と交流のある国と、日本、そして対照的な数カ国を統計で見てください。（注：統計がなかった国は省いてあります）

ジェンダー・ウォッチング

統計で見る女性の参画

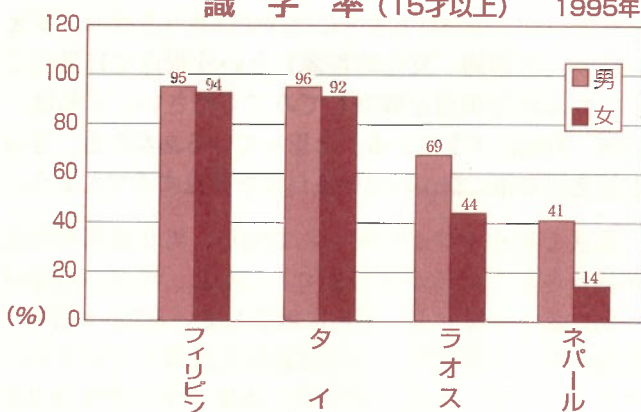
副理事長 丸谷士都子

中等教育（中学・高校）就学率 1995年

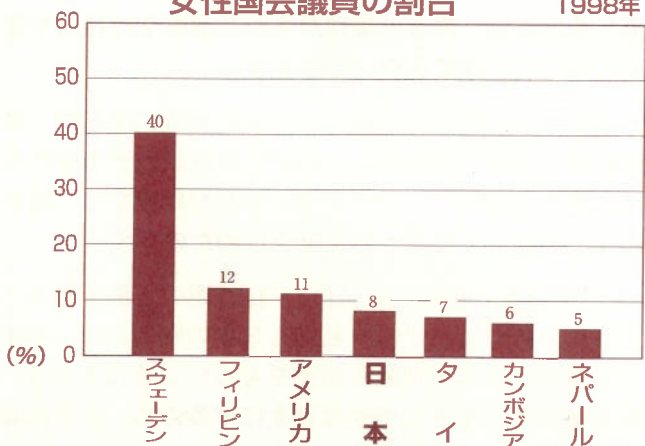


注：中等教育を受ける年齢層の人口より、学校に登録している生徒数が多い場合、就学率は100%を超える。（例：大人の夜間中学在籍者など）

識字率（15才以上） 1995年



女性国会議員の割合 1998年



参考：「世界の女性1998データシート」他

識字率、中等教育就学率に関しては、ネパール、ラオス、カンボジアに大きな男女格差が見えます。また、女性の地位が高い思われているアメリカでさえ、女性国会議員の割合は未だ10%を少し越える程度です。本では、教育は男女平等に受けられる状況にあるのに、政治の舞台で活躍する女性の割合はタイやカンボジアと大差はありません。

女性の教育は改善され、雇用は確かに増えました。しかし、子育てや家事の責務の上にさらに生産的労働をすることが多くの女性の負担を重くしています。これは途上国だけの問題ではもちろんありません。日本の例でもわかるように、社会の中での男女の役割を見直し、その中で女性が社会参加をしていく力をつけていかなければ、本当の意味での女性の解放にはなりません。

地球の木は支援プロジェクトにジェンダーの視点を取り入れることを目標のひとつにしています。その中で強く感じるのは、法律の中で女性を保護していくことも重要ですが、女性たち自身が男性も交えてジェンダーについて真剣に考え意見を述べていく努力をすることが大きな力となるということです。

ことば

ジェンダー (Gender)

男性と女性が生まれながらに持つ生物学的性差に対して、社会の中で定義づけられた役割や、文化の中で形づくられた概念によって作られる男女の差を指します。

「ジェンダー」はそれぞれの文化によって異なり、また歴史と共に変化していくので、常に一定ではありません。



ただいま絶賛発売中のマジカルバナナ

使い方・アイデア ヒント集

理事 澤野伸子

この教材は、バナナという身近な果物を通して、私たちの「買う」「食べる」という行動が世界のどなたどこに、どんな影響を与えているか気づき、問題意識を持ってもらおうというねらいで作られました。

バナナクイズ

「バナナを世界で一番多く生産している国はどこでしょう」など8問ありますが、全部する必要はありません。参加者に応じて問題を選びましょう。

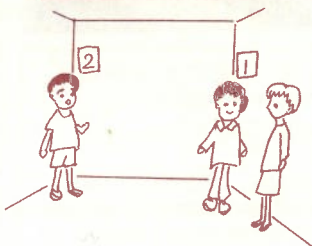
1~4の番号札を作って、部屋の四隅に貼って、その番号だと思うところまで移動してもらおうと、気持ちをほぐして、楽しい雰囲気づくりができます。



カードゲーム

「市販のバナナ」と「そうでないバナナ」を実物と生産地の写真で紹介して、カードをどちらのバナナの情報なのかで分けます。グループでしますが、人数が多ければ2組に分かれてカードを2セット使います。

グループ分けのとき言葉を使わないでやってみましょう。たとえば、「メロンかりんごのどちらかを思い浮かべてください。同じ物を思い浮かべた人を、話をしないで見つけてグループになってください」と言いますと、みんな「ウン？」という顔をしますが、そのうち身振り手振りでやって、それはそれはおもしろいんですよ。



クイズは紙に大きく書いて、答える人は部屋の四隅の番号のところへ



ロールプレイ

バナナ生産地の人々の生活と日本の家庭の場面が短い劇になっています。登場人物が16人あるので配役の名前を書いた札を首からさげるようにあらかじめ用意しておくとうまくいきやすいです。

★★いままでどなたどこでワークショップを やってきたかと言いますと…★★

子供会、中学校、学園祭、生協の地区会、生涯学級、おまつりなどです。

人の集まるところでしたらだいたいどこでもできると思います。講師も派遣しています。お気軽にご相談ください。

ワークショップに参加した方の感想をちょっと紹介します

◎プランテーションで働く人も自作農の人も生活がきびしい。自然環境もだけれど国際事情も関係しているのですね。それが私たち消費者の行動なのだという事を思いました。

◎私の中では「農業・プランテーション=悪」というイメージがすごくあったのですが、それを今日はいろいろ考えさせられました。悪と決めつける前にその構造やなぜそうなったのかを考える必要があるなあと思いました。

マジカルバナナを1セット持っている方へ

各キットはバラ売りもしています。参加者が20名以上になりますとカードや写真は2セットあった方がやりやすいと思います。事務局までお問い合わせください。

ネパールから

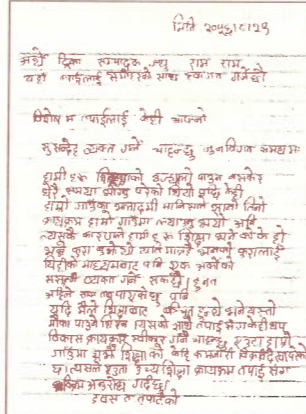
ニムティ村から地球の木のみなさんへ

私が'99年12月に現地を訪問した際、活動の中心地ニムティ村の2人の女性から地球の木へのメッセージをいただきました。バクパティさんは村の女性貯蓄グループのマネージャーをしています。バスマティさんは区選出の農村開発委員です。今回、私は農村開発委員会の会合を見学してきました。委員会には女性は5分の1の9人いますが、女性は傍らにかたまり意見を言う人がありませんでした。でも識字教室参加者の



バクパティ・デヴィさんから

『ネパールは14ゾーン、75郡に分れ、カイラリ郡が一番開発の遅れている地域の一つです。カイラリ郡の中でも最も開発の遅れているのがタル一族の地域です。でも地球の木やSOARSの支援により成人識字教室を行うことができ幸せに思っています。勉強をすることにより多くのことを知ることができました。以前のように他の人を頼る必要もなくなりました。自分の考えを書くこともできます。私たちは貯蓄基金も始めました。それはたいへん役に立っています。私たちは村有林も育てています。私たち女性はたかさんの家の仕事をしなくてはなりません、識字教室の他に技能や技術の習得も必要です。それを家族や社会に役立たせることができるからです。』



バスマティ・デヴィさんから

『以前は簡単な教育もなく私は自分の感じる事を書くことも不可能でした。そのためたかさんの問題がありました。私たちは識字教育を行なうことにより教育の必要な事を理解できました。私は感じる事を手紙で伝える事もできます。私たちの村ではまだ教育が十分で有りません。上級の識字教室も必要です。』

श्री आदर्शिय सहयोगी संस्था ध्यापनका
अर्थ ही र नेपाल की सहयोगी
संस्था सोर्स लाई रवाना ह ।

नेपालको १४ अञ्चल ७५ जिल्ला मध्ये सब
अझ पछाडी परेको जिल्ला कैलाली हो ।
येस जिल्लामा बिभिन्न जातीहरुको बसोबास
रहेको ह । ती जाती हरु मध्ये सब अझ
पछाडी परेको हामी थारु जाती हो । तर आन्धोली
आपानको अर्थ ही संस्था को सहयोगमा
नेपाल को सोर्स बाट प्रोडक ह्या गार्डि गडि आ
चलेकोले हामि पढ्न पाउदा परे सुरी हो ।
कीनकी परेदा पथोर आधोली मेरो ।

カンボジアから

村の発展は女性の参加で実現する

1月12日、オルタ生活館会議室において、JVCカンボジア現地代表の岩崎美佐子氏より、'99年度の事業報告が行われました。JVCによる持続的農業と農村開発プロジェクトの対象地域はプノンベン近郊の50カ村（世帯数約3,500）におよび、そのうち地球の木が支援している女性の自立支援プロジェクトは、カンダール州オンスノール郡の7カ村で行われています。その事業内容は、クレジット活動（貸付業務）、米銀行、牛銀行の運営および堆肥・緑肥作り、家庭菜園のトレーニングです。'99年度もこれらの活動に、農村女性の積極的な参加を促し、徐々に成果を挙げています。農村において、生活の安定ならびに農業の発展のためには、共同体による地域資源管理、有効利用が重要であり、それら各事業の運営に女性がかわること、より地域の改善が進むことが期待されます。慢性的な米不足・貧困によるさまざまな問題解決のためには、引き続き現地NGOの地道な活動が必至です。特に共同体における女性が結束して力をつけることの重要性が強調されました。

『共に生きる喜び』を分かち合えるようになるためには、カンボジア人も日本人も同じように、それぞれの日常の中で乗り越えなくてはならない困難が山積しているように思うのです。『ひとりじゃないよ、一緒に頑張っていこう！』と、カンボジア女性の確実な歩みを陰ながら応援するとともに、地球の木のメンバー一人一人の才能や個性が活かされる活発な活動が望まれます。（ほくぶ 岸夏代）

フィリピンから

ネグロスの村の女はよく働く

ネグロス島駐在の「アジア農村オルタナティブス」(ARA)の大橋成子さんにフィリピンでの女性の社会的状況をうかがいました。ARAはタイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア・韓国・日本の農民、とりわけ農村女性の交流を深める国際NGOです。

一般にフィリピンでは、女性の進学率が高く、政界・医者・弁護士・大学教授などの職業で日本と比較すると、はるかに多くの女性たちが活躍していますが、全体から見るとごく限られた階層だと言えるでしょう。多くの農村に住む女性たちは、衣食住・教育・医療費など基本的な生活費さえ事欠く生活を強いられており、更に農村の女性たちの地位は低く、土地の所有権はもちろんの事、公的な場での発言権もないという状態です。仕事とはいえば、村の若い女性は町へパートの売り子や家政婦として出稼ぎに行きますが、5~6人の子持ちの主婦はラバンデーラ（洗濯女）をしたり、おかずを作って売り、米代を稼ぎます。でも子どもや老人が仕事を分担して助けるので、主婦は家の中心になっています。地球の木の支援先のPAP21(21世紀に向けた民衆農業創造計画)では、ツプラン農場の6ヶ月研修に'99年7月から女性2名が参加しています。また、PAP21地域において就学前の子どもを対象にした「学びの場」が設置され、母親たちが自主的に集まりPTAのような組織を作りはじめています。

今年はJCNCのスタッフがコーディネーターとなり『ジェンダー・ワークショップ』が開催されます。確実にネグロスには、昨年とは違った風が吹きはじめています。（相模 稲葉博子）

ラオスから

女性の森林ボランティア誕生

ラオスの豊かな森は食料だけでなく、薬草・寝具・ゴザ・ザルなどの生活用具、漁労の用具、明かり用の樹脂などすべての生活資材の供給源になっていますが、精神的にも、精霊を奉ったり、女たちの安らぎの場となっています。しかし、輸出用木材の伐採や、外国に電力を売るための水力発電ダム建設のために



ラオスの森の精霊を奉る祠

広大な森林がなくなってきています。村の人々の生活の糧である森林を守り、森林資源の有効的活用をするために、自らの力で村の森林保全をする運動に地球の木は支援しました。森林保護の意義、村人と森林の関係、森林保護における村人の役割と権利などについてのワークショップが行なわれました。そこに2人の女性が初めて参加して森林問題を話し合ったのでした。それから森林の調査や数回のワークショップに女性が一緒に加わって活動していくことになり、女性が対等な形で社会参加することへの理解が得られ、女性自身の自信にもなったのでした。実際に森で作業するのは女性の方が多いのにもかかわらず、それまでは森林保全のボランティアは男性ばかりだったのです。その結果13人の女性の森林ボランティアが誕生しました。これからは男女が対等な形で社会参加できるようになることを目指す「ジェンダー研修」を行なうことと、そのためのハンドブックの発行が計画されています。

(三浦 松本陽子)

手をつなぐアジアの女たち

参加者の声

昨年11月に行われたシンポジウム「手をつなぐアジアの女たち」には、
沢山の反響がありました。その中から、お二人の方の感想をご紹介します。



また一つ、私へのヒント

岩下 順子 (横浜市磯子区)

私は、「開発」の意味についてそれほど真剣に考えたことはなかった。日本の多くの企業が、東南アジア各国に工場を設け、そこを生産拠点としているという事は知っていたが、その事が現地に及ぼす「影響」について深く考えた事は今までなかった。開発という言葉と1セットになって聞かれる「経済効果」という言葉に嘘はないだろう。実際、開発によって潤った人々が、開発した側にもされた側にもいる。しかし、その「潤い」の向こう側に「乾き」がある事実を、私はよく知らずにいた。

日本で暮らしてタイ製の品物をよく目にする。それは、電化製品であったり、缶詰や冷凍食品などであったり、Tシャツであったり多岐に渡っている。そして、それらは「安価」だと感じる。安価であるために、ぞんざいに扱ってしまったこともあった。これは、安価な品々の「向こう側」への視線を欠いていた私の、ひとつの真実である。今、自分が手にしている品物が、どのようなプロセスを経てタイで作られたのかということや、さらに、「作り手たち」の素性・事情を知る機会も、あまり無かった。しかし、このシンポジウムに参加し、いくつかの資料を読んだことで、一つの「私へのヒント」が与えられたように思っている。

「アジア」という、広くて、深くて、果てしないようにすら感じられる地域に、ある日突然、ひよんな事から目を向け始めた私の、「心の瞳」がまた一つ開いたような。陸続きではないにしても、同じ「アジア」の誰かが作ったものの「向こう側」に視線を向ける事の重要さがわかり始めたような。そして、「向こう側」と「こちら側」とで、手を携えて未来へと歩んでいる人達がこんなにたくさんいるという驚きと喜びを感じたような。そんな様々な思いを抱くことのできた、有意義な秋の午後だった。(岩下さんの原稿より抜粋)

心に残る シニットさんのお話

山下りつこ (横浜市中区)

大らかで、とても気さくな感じのシニットさん、キラキラと輝く目での基調講演に私だけでなく多くの皆さんが聞き入りました。

アジアで支援活動をする私たち日本人に、援助を受ける国の立場として、過去の“ミヤザワコウソウ”がタイにどんな弊害をもたらしたかというお話や、支援活動をするグループの「日本にどんな支援を望まれますか？」という質問に対し、苦笑しながら「ヒストリー＝歴史を日本の皆様には是非勉強してほしい」と答えられたのが、私にはとても印象的でした。そして帰り際、「何か沢山の宿題をもらったような気がするわ」という言葉が周囲からたくさん聞こえてきました。

私たちが歴史をしっかりと勉強し、アジアの人々とお互いを理解し合った上での関係は、より実りあるものであろうと、誰もが考えさせられた素晴らしい講演会でした。

債務帳消しキャンペーン (JUBILEE2000) その後

JUBILEE2000は地球上から貧困を無くすため、特にアフリカ、過重債務に苦しむ41カ国への債務帳消しキャンペーン行動で、地球の木の会員の皆さんにも署名をご協力頂きました。(32号参照)

その結果はケルンG7へ世界165カ国、1,700万人の署名を提出し、合意が得られましたが、それでも債務国の対外債務は今も増え続けています。それは債務帳消し分が、全債務の中のほんのわずかだからです。帳消し分を債務国が教育、福祉にまわしたくても、日本をはじめとする融資国、IMF、世銀への債務返済が重くのしかかっており、難しい状況にあります。

ボランティアの声

今回のシンポジウムもたくさんのボランティアが支えてくれました。その一つが、シニットさんへの宿の提供です。ホームステイを引き受けて下さった三人の方々に感想などを伺いました。

宮川さん(横浜市港南区)・・・シニットさんは、とても自由でのびのびした方で主人が座布団をしてあぐらをかくと、彼女も座布団をしてあぐらをかき、堂々とおしゃべりし始めました。主人と三人で英語、タイ語、日本語をまじえておしゃべりしましたが、私のつたないタイ語もよく理解して下さい、とても嬉しく、感謝しております。

瀧口さん(横浜市港北区)・・・わが家に到着された夜は、お疲れのご様子で早くにお休みになされました。その代わり翌朝は早くお起きになって、その日のシンポジウムの原稿の準備をせっせとやりました。そのような中でしたが、食事の時などには、大変気さくに私たちと歓談して下さいました。短い時間ながらも、貴重な楽しい経験となりました。

澤さん(川崎市多摩区)・・・シンポジウムを無事終えられ、わが家に到着されたシニットさんは、とてもリラックスされた様子で、タイのこと、ご自分の本のことカナダでの留学生活のことなどいろいろ楽しく、ユーモアたっぷりに話されました。息子たち(大学生と高校生)も、つたない英語ですが、できる範囲で学校のこと、生活のこといろいろお話をしていたようです。とても楽しく笑いの絶えない夜でした。

とにかく、ホームステイは、日本に居ながらにして国際経験ができる良いチャンスだと思います。皆さんにも是非お勧めしたいです。



地球の木の 本棚から

岩波新書「女たちがつくるアジア」 松井やより著 定価660円

新聞記者・フリージャーナリストとして20年以上アジアとつき合ってきた著者ならではの最新('96)レポート。凄まじい人権侵害と環境破壊を伴って進んでいるアジアの経済成長、その中で国境を越えて実を結びつつある女たちの草の根活動、それらを「ある時は祈りをこめて、ある時は心を踊らせて書いた」と著者。



知っていますか?

- 街頭で配りまわられてるポケットティッシュはどこから来るの?
- 女性の人身売買…その最大の受入国は…日本?

INFORMATION

●北朝鮮子供救援キャンペーンに108件、256,957円の寄付がありました。(2月10日現在)ありがとうございます。

●みなさまのご意見をお待ちしています。今回のテーマは、3月8日「世界女性デー」にちなんで「女性の参画」としました。よりよい会報にするために、ご意見をお寄せください。異論・反論も歓迎です。



ネパールの村で見た命の尊さ



去年の12月、ネパールチームの米林さんがネパール極西部に現地調査に行くというので僕も一緒に連れて行ってもらった。

カトマンドゥからバスに揺られること18時間、カイラリ郡ニムディ村に着いた。そこは、電気もガスもなく、道も整備されていない、店といえば、畳一畳ほどの御茶屋さんしかない、今までに見たこともないような田舎だった。

目の前には、小さく区画された畑が広がり、車も1日に1台くらいしか通らない。水牛が人や物を運んでいるのを見て、江戸時代よりもずっと前にタイムスリップしたような気がした。そこは、様々な動物たちが人間と一緒に生活をしている世界だった。

僕たちは、ネパールの人たちには想像もつかないようなコンクリート・ジャングルの中で土も踏まない生活をしている。動物たちは人間から隔離され、身近にいるのは鎖につながれた犬や猫ぐらいなものだ。僕たち都会に住む人間は、自分たちも牛や鶏や犬と同じ動物であるということを忘れてしまっているのではないだろうか。

今回の旅で僕が一番考えさせられたのは、村の祭りに参加した時のことだ。祭りの時、村の人々は神に供え物をする。豚や山羊や鶏などの動物たちだ。彼らは、自分たちの死を予感してか、泣き叫び、暴れ回る。しかし、彼らにはもう自分たちの運命は変えられない。村の人たちが見守る中、次々と首をはねられる。首のない身体が、もだえ苦しむ。鶏は首をはねられた後、10数メートルも、もがきながら飛んでいた。無惨で、とてもかわいそうな光景だった。あんな場面を見たのは生まれて初めてだ。しかし、村の人たちは、僕の気持ちとは逆に、結構楽しんでいるように見えた。



僕は2年ほど前から動物の肉を食べるのを止めてベジタリアンになっていたが、この祭りを見てから、肉を食べるということに対して更に拒絶感がつづいた。今の日本では動物保護と言いながら、大量の肉を消費し、無駄にしている。しかし、皆、罪の意識は無いように見える。それは、動物たちが殺されている現場を見ていないからではないだろうか。みんなが食べている肉は、元の姿も分からない程きれいに切られ、パックされて、スーパーで売られている。他の動物たちの命をもらって人間は生命を繋いでいるのに、そのことに気づいていないのだ。だから、他の動物たちの命の尊さ、ましてや、同じ人間の命の尊さまでも軽く見てしまうのではないだろうか。

INFORMATION

連続講座

料理を通してアジアを学ぶ

地球の木 / VISION共催

受講料 3,000円 (単発参加)

場所 オルタ館 4階料理教室

申込み VISION事務局

TEL/FAX 045-472-7093

4月1日 タイ料理 (トムヤンクン、ヤムウンセン、
タピオカ入りココナッツミルク)

5月6日 カンボジア料理 (ココナッツカレー、ニョア
ム・サッチ・モアン)

6月3日 台湾料理 (ちまき、胡麻団子、大根もち)

7月1日 朝鮮料理 (チジミ、ナムル他)

●時間はいずれも午後1時30分~4時30分

ただいま発売中!

■開発教育教材キット **マジカルバナナ** ¥1,500

■シニット・シテイラック著
翻訳出版「**母のキッチンガーデンから**」 ¥1,500

地球の木とは

地球上のすべての人々が自然と共存し、人が人らしくあたりまえに生きていくことができるように、地域と地域を結ぶ国際協力活動を行い、相互理解を深める社会教育活動を通して、お互いの人権を尊重し、それぞれが自立した生き方を創造することを目的としています。

●会員募集中! お問い合わせは事務局まで045-471-5536